

- スズキ、「エブリィ」等計7車種のミッションオイルが漏れる恐れがあるとしてリコール 21年5月15日～同年7月14日に生産した1210台  
自動変速機のマニュアルシフトレバーシャフトのオイルシールにおいて、シャフトの組付治具が不適切であったため、オイルシールのリップがめくれているものがある。そのため、当該部位からオイルが漏れ、最悪の場合、走行不能に至る恐れがある。
- BMWジャパン、「X5」等計8車種のエアコンのワイヤーハーネスに不具合があるとして再リコール 07年4月2日～11年9月3日に生産した5035台  
今回の不具合については2018年12月19日にリコールを届け出ているが、対象車両の拡大が必要であったことが判明したため、追加で届出を行った。エアコンのプロワーファンレギュレーターへ電力を供給するワイヤーハーネスの端子のメッキ素材が不適切なため、車両振動によってメッキが損傷し、摩擦腐食が発生することがある。そのため、電気抵抗が高くなりワイヤーハーネスの端子が発熱し損傷して、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」のエンジン制御プログラムに不具合があるとしてリコール 17年6月5日～21年9月1日に生産した3万4588台  
エンジン制御プログラムが不適切なため、高負荷連続走行中に速度抑制装置が作動するような条件下で異常燃焼が発生することがある。また、ヘッドカバー内油切性能が不十分なため、坂路を高負荷走行するとヘッドカバー内に滞留したオイルがブローバイガスとともにミスト状の形で燃焼室に廻り込んで異常燃焼が発生することがある。そのため、走行中にコンロッドが疲労破損してエンジンが停止し、コンロッドの破損によりオイルが飛散した場合は周辺部品が焼損し、走行不能となる恐れがある。
- トヨタ自動車、「ヤリス」等計39車種の事故自動緊急通報装置に不具合があるとしてリコール  
トヨタ車20車種、レクサス車19車種の合計39車種。21年4月26日～同年8月3日に生産した11万1842台  
①【事故自動緊急通報装置(車載通信モジュール)】制御プログラムが不適切なため、音声データと通信データ間の相互交換ができない場合がある。そのため、緊急時に音声通話ができず、保安基準第43条の8(事故自動緊急通報装置の基準)に適合しない。対象車両は10万5221台。②【電気装置(ハイブリッドビークルコントロールコンピュータ)】制御プログラムが不適切なため、シフトレンジに関する演算の途中でシフトの切替え操作が行われると、異常と誤検出する場合がある。そのため、警告灯が点灯して、ハイブリッドシステムが停止し、走行不能となる恐れがある。対象車両は1万0106台。③【原動機(エキゾーストマニホールド)】パイプの溶接条件変更時の強度検討が不十分なため、冷熱の繰返しや振動等により当該溶接部に亀裂が生じるものがある。そのため、登坂路走行等の高回転時に排出ガスが漏れ基準値を満足しなくなる恐れがある。
- マツダ、「RX-8」「アテンザ」に燃料漏れの恐れがあるとしてリコール 05年2月10日～12年6月23日に生産した1万2491台  
燃料タンク上面にある樹脂製ポンプリング部の遮熱性が不足しているため、エンジンや排気管からの熱影響を受けてポンプリングが劣化することがある。また、ポンプリングの締め付けトルクの設定が不適切なため、ポンプリングの強度が低下することがある。そのため、そのまま使用を続けるとポンプリングに亀裂が入り燃料が漏れ、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- 三菱フソウトラック・バス、「ふそうファイター」のシートベルトバックルに不具合があるとしてリコール 19年8月7日～21年1月14日に生産した8983台  
運転席のシートベルトバックルに取り付けられているシートベルト装着状況を検知するためのセンサー用ハーネスの配策が不適切なため、使用過程でシートベルトバックルが当該ハーネスを挟み込むことがあり、この繰返しにより当該ハーネスが損傷し、シートベルト非装着警告灯と警報ブザーが誤作動する恐れがある。